

2018年度 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム  
「あさひかわオープンカレッジ」のご案内

共催：旭川市教育委員会

日時：2018年9月15日～11月3日（土曜日）全6回 13:00～15:00

場所：フィール旭川7階 講義室

（日によって場所が変わります。裏面へ記載）

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアムと旭川市教育委員会とが連携し、市民のための公開講座を開催します。（資料代として各1講座、500円いただきます。ただし、学生・生徒は無料です。）なお、手話通訳が必要な方は、早めにお申込みの上その旨お伝えください。

◎8月17日（金）募集開始

## テーマ「これからの旭川Ⅱ」

9月15日（土）「買物公園・北彩都以降のまちづくり」

講師：東海大学 名誉教授 大矢二郎

9月22日（土）「“不登校12万人”をどう捉えるか」

講師：旭川大学短期大学部 助教 佐々木千夏

10月 6日（土）「キレイの科学」

講師：北海道教育大学旭川校 教授 川邊淳子

10月20日（土）「『これからの旭川』における健康長寿を考える」

講師：旭川医科大学 教授 伊藤俊弘

10月27日（土）「旭川の『鋳物』～銅像からモノづくりまで～」

講師：旭川工業高等専門学校 教授 堀川紀孝

11月 3日（土）「家庭で生活できない子どもたち～児童虐待の実情とその対応、そして地域の役割～」

講師：旭川大学 教授 鹿野誠一

※ 講師の都合により、内容等が変更になる場合があります。

お申込み・お問合せ

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

TEL & FAX 0166-26-0338

Mail [awbcns2013@gmail.com](mailto:awbcns2013@gmail.com)

イラスト：©いらすとや

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムでは、市民のみなさんの身体的・精神的・社会的な健康の達成と、元気な地域の形成に貢献できるよう様々な活動を行っております。本講座も生涯教育のひとつとして、単なる知的興味の満足や伝達に終わるのではなくともに地域の課題を考え、地域づくりに取組む契機となることを目指しております。お気軽に参加ください。（興味のある講座だけでも受講できます。）

定 員：各講座30名  
募集開始日：8月17日（金）10時より  
（道民カレッジ連携講座です。）

#### 講義概要

9/15（土）（シニア大学講座室）

#### 「買物公園・北彩都以降のまちづくり」

1972年に造成された全国初の恒久的歩行者天国「平和通買物公園」から、2014年に鉄道の高架化、新駅舎建設などインフラ整備を終えた旭川駅周辺開発事業「北彩都あさひかわ」まで、変貌をとげる旭川の都市開発を振り返り、今後、人口減少、少子高齢化の時代を迎えるにあたって、どのようなまちづくりを目指すべきかを考えます。

9/22（土）（シニア大学講座室）

#### 「“不登校12万人”をどう捉えるか」

小中学校の不登校児童生徒数はここ20年間、毎年12万人前後にのびります。学校に行きたくないと思ったことは誰しもがあるはずですが、はたしてこの該当者数は多いのでしょうか。少ないのでしょうか。社会学的な立場からこんにちの不登校問題について考えていきます。

10/6（土）（共用会議室1）

#### 「キレイの科学」

近年、数々の化学物質を用い、抗菌・除菌・殺菌などといった方法で、キレイな生活を送るようになりました。

一方で、外部からの異物に対して、身体が過度な反応を示すことも年々増加傾向にあります。我々の身体だけでなく、衣・食・住生活といった日常生活におけるキレイにすることの意味と、その裏側にある問題点について考えていきます。

10/20（土）（共用会議室1）

#### 「『これからの旭川』における健康長寿を考える」

超高齢化社会が進む我が国では、平均寿命と健康寿命の差を縮めることが目標のひとつになっています。健康寿命を延ばすことは、生活習慣病の発症と加齢に伴う精神・身体の衰えを共に予防することが大切になってきます。

旭川は日本で最も寒い都会です。寒さは健康長寿を妨げる原因の一つですが、旭川で健康寿命を延ばすためには何を行うべきか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

10/27（土）（シニア大学講座室）

#### 「旭川の『鋳物』～銅像からモノづくりまで～」

ものづくりを支える鋳造（ちゅうぞう）とは、金属を融かして砂や金属の型に注ぎ、形をつくる技術です。旭川で見かける「鋳物（いもの）」、旭川でつくられる「鋳物」の話を交えながら鋳造について紹介します。

また、「鋳物」づくりの実演もあります。

11/3（土）（シニア大学講座室）

#### 「家庭で生活できない子どもたち～児童虐待の実情とその対応、そして地域の役割～」

児童虐待の通告件数が年間12万件を超え、死亡事例も後を絶ちません。

身近な問題として、児童虐待の発生の背景とその対応、対策などの現状を知り、地域や市民の役割について共に考えたいと思います。